

平成二十八年度 第五十九回卒業式

式辞

この場所に移転して九年目となる弥富中学校。他の学校に比べ、樹木はまだそんなに大きくなっていません。そんな中に、正門の脇に河津桜があります。今年は例年になく寒い日が多く、ずっと固いつぼみのままでしたが、みなさん卒業に合わせるかのように花を咲かせてくれました。

本日、第五十九回卒業式を挙行了しましたところ、公私ともに大変お忙しい中、弥富市議会議長武田正樹（たけだ まさき）様をはじめ、多くの来賓の方々のご臨席を賜りました。高いところからではございますが、厚く御礼申し上げます。

ありがとうございます。

さて、二二一名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

今、こうして、いつもと変わらぬ凜とした皆さんの姿を見ると、心が落ち着きます。これは私だけではなく、今日の卒業式に参加している二年生も同じ気持ちではないでしょうか。一階の廊下で見か

けるいつもの先輩の姿。試合中に聞こえる先輩の声。どれもが心地よい弥富中学校の風景でした。「いつもと変わらない」ということがこれほど安心感を覚えるということ、私は皆さんに出会うまで知らなかったかもしれません。

「安心感」。それは、とても居心地のよい空間です。そこに身を置くことで人は癒され、穏やかな気持ちになります。できることなら、ずっとそこにいたい気持ちになります。しかし、私はあえて皆さんに伝えたい、「変わりなさい」と。

皆さんも気づいているように、今、世の中はものすごい速さで変わっていています。自分が「安心感」を求めて変わらないでいたら、それは、相対的に、どんどん取り残されていっていることになります。

最初に、「弥富中学校がこの場所に移転して九年」と言いましたが、以前の校舎で中学校生活を送った私としては、まさかその校舎がなくなるとは思っていませんでした。しかし、考えてみれば、古い校舎を建替えたことで、皆さんはこの素敵な校舎で三年間の中学校生活を送ることができたのです。変わるといふことは、恐（こわ）

さや寂しさはあるものの、ひと回りもふた回りも成長するための大切なステップだと思います。四月から新しい環境に進む皆さんだからこそ、変えていく勇氣をもつてほしいのです。

一方で、そんなふうをめまぐるしく変わる世の中にあって、変えてはならないものがあることも、皆さんは知っています。昨年から力を入れて取り組んでいる道德の授業をはじめ多くの授業で、友達と話し合い活動をしてきました。机の向きを変え、「僕はこう思うんだけど」「私は、ちょっと違うと思うわ」と意見を交わしました。確かに、自分の考えと違う意見を聞くと、一瞬、自分自身を否定されたようで、むっとしてしまいますが、自分にはない視点に気付かせてくれる人、自分とは違う生き方をしている人、人はそんな人と出会うことで新しい価値観を手に入れます。昨年、ノーベル医学・生理学賞を受賞した東京工業大学の大隅良典（おおすみ よしのり）教授は「人と違うことを恐れずに」と言ってみえます。Twitter や Facebook などで「いいね」を何千・何万ともらうよりも、周りにいる人と顔を突き合わせて大いに議論すること、これこそがこれからずっと大人になっても、年をとっても変わることなく心がけてほし

いことです。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子さまのご卒業、誠に
おめでとうございます。

三年間にわたり、皆さまが「変わらない」愛情で大切に育んで
くれたお子さまをお預かりし、本校教職員一同、「子どもたちの成長の
ため」という「変えてはならない」信念をもって全力を尽くしてま
いりました。時にはそれが十分に伝わらずに、保護者の皆さまには、
もどかしさを感じられたところがあったかもしれませんが、本日、
子どもたちの「変わっていった」立派な姿をお見せすることができ
たことを、教職員一同誇りに感じるとともに、この成長を保護者の
みなさまとともに喜びたいと思います。この三年間、弥富中学校に
深いご理解と、多大なご協力をいただき、誠にありがとうございます
でした。

子どもたちは、今日、弥富中学校を卒業しますが、私たちはこれ
からもその後姿を「変わらない」思いで応援し続けることをお約束
し、私の式辞といたします。

平成二十九年三月三日

弥富市立弥富中学校長

高山典彦